

名古屋国語教育研究会会報

令和3年11月16日

広報部

第69号

「夏の半日研究会」をふり返って

東京オリンピック・パラリンピックにおいて、熱い戦いが繰り広げられた最中の8月6日、新型コロナウイルス感染症対策を万全にして、「夏の半日研究会」をウインクあいちにて開催しました。「未来に生きることばの力 -『言葉による見方・考え方』を働かせて実現する『深い学び』-」という研究主題のもと、各部会が「評価」と「ICT活用」の2本柱に絞って提案しました。

当日は、橋本吉太郎会長による挨拶に続いて、貴調提案がありました。その後、各分科会において、熱心な協議が行われました。のべ152名の方にご参会いただき、大変有意義な研究会となりました。

今年は、感染拡大防止のため、講演会を7月10日にオンラインで開催しました。「国語科における深い学びの視点からの授業改善 ～資質・能力を育成する指導と評価の一体化を目指して～」というテーマで、大妻女子大学准教授、元国立教育政策研究所学力調査官兼教育課程調査官 樺山敏郎氏に講演をしていただきました。

〈樺山先生のご講演より〉

- ・「国語科における深い学び」とは、「主体的・対話的な学びと相まって、身に付けようとする資質・能力が量的かつ質的に増大していく学び」であり、量的・質的、すなわち結果と過程という両面から深い学びの実現状況を検討することが大切である。量的な側面では、既存の「知識・技能」「思考力、判断力、表現力等」がどのように更新され、新規に習得されたかに目を向けること、質的な側面では、自分の学びを自分の言葉で語るメタ認知が重要な視点である。
- ・学習評価については、特に「主体的に学習に取り組む態度」をどのように育て評価するのが重要である。教師主導の部分、子どもに考えさせる部分のバランスを取りながら、「子どもと一体となって学びのゴールイメージを描き、学びの文脈を子どもと創る」ことができるよう、指導力・授業力・評価力を磨き続けることが必要である。

新しい時代に即応できることばの力を育成することができるよう、そして、深い学びを実現することができるよう、常に質の高い授業を目指していきたいという思いを新たにすることができた講演会、半日研究会となりました。

〈各分科会の様子〉

【小学校読むこと部会】

5年生の三つの物語教材を使って、系統的な読むことの指導と評価の仕方について提案しました。

系統的な読むことの指導の提案では、それぞれの教材の特性に即した「読みの観点」を示し、子どもたちに習得・活用させる授業計画について発表しました。

また、授業ごとに学びを振り返る「一枚ポートフォリオ」を示し、「主体的に学習に取り組む態度」の評価について提案しました。参会者からは、「『主体的に学習に取り組む態度』の評価の具体的な取り方として参考になった」というご意見をいただきました。また、今後の課題として、「読みの観点」を整理することやICT機器の活用について検討していこうと思います。



【中学校読むこと部会】

「私」(中3年)を使って、「評価を踏まえた授業づくり」について提案しました。

小グループに分かれ、評価したことを子どもの学習改善や授業改善に生かすための方法について参加者と話し合い、全体で共有しました。後半は、授業におけるICT機器の活用例を紹介しました。参会者からは、「これまでは『評価=成績を付けること』という捉えていましたが、今日の話合いを通じて、評価したことを基に生徒へ適切な支援をしていく大切さが分かりました」という感想をいただきました。



【話すこと・聞くこと部会】

「主体的に学びに向かう態度」の評価方法について提案しました。

学習活動の各段階（課題設定・情報収集・情報整理・発表準備・発表）において、「学習状況に合わせて学びを自己調整しているか」「自らの目標に向かって粘り強く取り組んでいるか」について、単元全体を通して、児童の思考の過程の記述が評価には大切であると確認しました。

そして「ひみつを調べて発表しよう」（小5）を例に、児童が各段階を振り返ったワークシート「学習履歴図」を使い、どの記述が思考の過程の記述となるのか、参会者の方と一緒に話し合いました。

また、ICTの活用方法として「ロイロノート」でのデータの蓄積や評価の活用なども紹介しました。



【書くこと部会】

「俳句を作ろう」（小5年）では、成果物がある単元での評価の場面や、「主体的に学習に取り組む態度」の評価を取り上げました。振り返りの記述例について評価したポイントを提案し、俳句や短歌の表現技法を練り上げる際の、「ロイロノート」活用の効果を示しました。

「しゃしんをくらべて、考えよう」（小2年）では、「同じ学習の流れを繰り返す」ことで学習の見通しをもたせる授業提案と、「思考力・判断力・表現力等」の評価を取り上げました。想定した文章例と評価のポイントとを照合しながら、評価基準を具体的に提案しました。また、児童が内容や構成を考える際にICTを活用する効果を示しました。会場から、評価基準を児童に示すよさや、単元全体の計画とその支援の方法などに質問や意見が出ました。



【言語部会】

前半は、語彙指導に関する授業提案を行いました。途中、「主語くじ一文」という言葉遊びを参会者とともに楽しみながら体験しました。その後、「理解語彙を使用語彙にするための指導の工夫」というテーマで、小グループに分かれて話し合い、その内容を全体で共有しました。小中の参会者が同じテーマで話し合うことで、様々な意見やアイデアが生まれていました。また、

後半では、ICT機器を活用した言語に関する実践紹介を行いました。ロイロノートやスカイメニュークラウドなど、実際に実践者が行ったタブレットの操作手順や指導過程などを映像で示しながら、分かりやすく伝えました。事後アンケートには、「内容が具体的で、すぐに授業で使える」といった意見を多数いただき、有意義な時間とすることができました。



【書写部会】

「目的や必要に応じて文字を書く力を育むプロジェクト型学習——ICT機器を用いた、『情報収集』と『評価会議』を通して——」と題して、書くことにおける目的を明確にさせた授業の提案がありました。学区にある店舗の「お店の人に喜んでもらえるポップやチラシを書いて提案しよう」というゴールを設定して授業が行われました。「ロイロノートスクール」というアプリケーションを使い、字形・配列・文字の大きさに注目させて、互いにコンピューターの画面を見ながら助言し合い、改善して文字を書きました。参会者からは、「いかに目的をもたせるか、一つの方法を示してもらえて、やってみようと思った」などの感想がありました。



第60回政令指定都市中学校国語教育研究協議会名古屋大会

大会主題 「未来に生きることばの力」

11月19日(金) ウィンクあいち1203会議室

13:00 受付開始

13:30 授業趣旨説明

13:40 公開授業(授業動画視聴)

14:40 研究協議

15:40 閉会行事

新型コロナウイルス感染予防のため、録画した授業動画を視聴し、オンラインで結んだ各都市参加者との研究協議という形式に変更して開催します。
感染症拡大状況により、開催方法が変更になる場合もあります。

《 授業研究部より 》

国語の授業のアイデアを紹介したり、若手の先生の困っていることを気軽に相談したりできる場です。

名国研の会員以外の方でも、誰でも参加できます！

ご興味のある方は、下記までご連絡ください。

小学校部会 松崎 弘幸(鳴海小) IP 71-3401

次回 11月25日(木) 18:30~ イーブルなごや

中学校部会 宇佐見 康(箕瀬中) IP 71-2533